

エピソード集

「わたしが子どもから学んだこと」



令和 6 年 5 月 28 日

宇治市乳幼児教育・保育協働研修会にて



エピソード「わたしが子どもから学んだこと」

いつ	5月の最初の頃
どこで	保育室
子どもの学年	1歳児
(エピソード) こどもたちと過ごすなかで1つの環境を作っていた時のこと。 1日目は牛乳パックの囲い（口）が完成 ➡こどもたちは囲いの上に牛乳パックを“シュー”と進ませて遊ぶ姿 2日目は牛乳パックの囲い（口）に高さがある牛乳パックが1本立つ ➡1本だけ高くなる牛乳パックに帽子やペットボトル等をかぶせるようにかけて遊ぶ姿 3日目は高さのある牛乳パックが2本プラスされる ➡牛乳パックと牛乳パックの間で座る、2日目と同じように遊ぶ お互いが意識しながらあそぶ姿 日を過ごすごとにつれてお互いが意識しているのか、友達の真似をする姿から顔を見合わせてコミュニケーションを取る姿	
(子どもから学んだこと) ・あそびを見つける名人 ・ことばがなくてもお互いを意識し過ごす力 ・一緒に過ごす中でお互いを意識する力	



エピソード「わたしが子どもから学んだこと」

いつ	5 月
どこで	保育室
子どもの学年	2 歳児
(エピソード) いつも通り室内で遊んでいると、一匹の蚊が飛んでいた。 子どもたちが蚊にかまれるといけないと思い、手で蚊をパチンとたたこうと保育者がすると A くんが「いたいたい」と言った	
(子どもから学んだこと) 日常の中で生き物やお花などを大切にすることを伝えていることで、蚊を大切な生き物だと思ってくれていることがステキだなと思った。 改めて自分自身も、子どもから命を大切にしないといけないことを学んだ。	



エピソード「わたしが子どもから学んだこと」

いつ	6 月頃
どこで	保育室
子どもの学年	2 歳児
(エピソード) ・ 4 月から通園が始まった子のエピソード ・ なかなか人に対して興味がもちにくい様子で、目が合うことも少なかった児が通園を重ねていく中で、少しずつ目が合う頻度が増えてきた時期、朝の支度の場面で、“タオルを掛ける”この動きが定着するのに約 2,3 か月かかった。 ある朝いつものように支度をする場面で保育者が見ていない間にタオルが掛かっていたことがあり、児の顔を見て目を合わせながら、「すごいね！上手にできたね！」と大きなリアクションで褒めると、目を見てほほえむ姿があり、“ほめられている”“うれしい”という感情を児がとても表現できた瞬間だった。	
(子どもから学んだこと) ・ 毎日の積み重ねで繰り返し行うことで身についていく、何気ない動きに気づき、大いにほめることで、児の中の意識の変化が見られたことから、保育する立場や周りの大人は日々の言葉かけや注目できたところは大切に返す、反応することで、積み重ねにつながるんだと実感した。	



エピソード「わたしが子どもから学んだこと」

いつ	4 月
どこで	保育室
子どもの学年	2 歳児
(エピソード) なかなか、好きな遊び・したい遊びが見つからず、遊んでいる友だちの玩具をとって相手の反応を見ておもしろがる A くん。 給食後、いつものように友だちの所へ行ってちょっかいをかけていましたが、近くにいた（クラス内でしっかりしているお姉さんのような立ち位置の）B ちゃんが A くん「これで遊びたいん？一緒に遊ぼう～おいで～」と、A くんのちょっかいをかけた玩具を確認しながら声をかけた。 声をかけられた A くんは、誘われた事に喜び、遊びを始めるようになった。	
(子どもから学んだこと) どう遊びを見つけていくか悩んでいたが、乳児クラスだからといって保育者との関わりから広げるだけではなく、子ども同士の関わりから遊びが見つかる・始まっていく事を再認識することができた。	



エピソード「わたしが子どもから学んだこと」

いつ	2 年前
どこで	園
子どもの学年	2 歳児
(エピソード) 初めて担当したクラスには発達がゆっくりな子どももあり、言葉が出ていない子どももいた。 やり取りはジェスチャーや子どもの行動から大人が読み取ることが多い。 言葉がゆっくりで、新規場面への不安感が高く、なかなか発声も見られない A くんが、毎日の朝の会でのお名前を呼んでも目を見るだけだったが、毎日毎日繰り返す中で、2 月に初めて“ハイ”と手をあげて返事をした。	
(子どもから学んだこと) 日々の保育ですぐに見られるような大きな成長（花）ばかりではないが、こどもたちの土台となる部分をたがやすことが花になるのだと思った。	



エピソード「わたしが子どもから学んだこと」

いつ	5 月上旬
どこで	保育室
子どもの学年	2 歳児
(エピソード) A くと B ちゃんはパズルで遊んでいた。 A くんの手元には色んな絵柄のピースが集まっていた。 B ちゃんは 1 つの絵柄を集中して取り組んでいた。 A くんは B ちゃんが持っているパズルが欲しくなって、「かして」と手をのばしていた。 B ちゃんは何も言わず、最後の 1 ピースをくるくる回してはめようとしていた。 なかなか貸してくれない B ちゃんに、A くんは泣き始めた。 それを見ていた C ちゃんと D ちゃんが間に入ってきて、「どうしたん？パズルかしてくれへんの？」と A くん聞いた。 C ちゃんと D ちゃんは、「A くんかしてっていつてで」と B ちゃんに声を掛けしたが、B ちゃんは、「いやや…」と下を向いた。 「いまつかってねんて」と C ちゃんが A くんと言くと、A くんは手に持っていたパズルをぽいっと机に置きティッシュを取りに行くと涙を拭き、違う遊びに向かう姿があった。	
(子どもから学んだこと) 子どものやり取りを、今回はあえて見守ってみた所、子どもたちの中で互いに声を掛け合う姿が見られた。また、自分で気持ちを切り替える姿を見て、これまで保育者に求めているアタッチメントが徐々に立て直していくのだと感じた。	



エピソード「わたしが子どもから学んだこと」

いつ	運動会前
どこで	保育室
子どもの学年	3 歳児
(エピソード) 保育室で雑巾レースをしている際、他の子どもより運動が苦手な子どもが、上手く走れず転んでしまった。 何でも面白く感じる年齢の子ども達はそれを見て「こけたー」と笑っていた。 自分ともう一人の担任が止めに入ろうとしたら、1 人の男の子が「頑張ってはるねんで！笑ったらあかん！」と言い、そこから転んだ子どもの応援モードになり、転んだ子どもも皆に応援されて嬉しそうに終えることができた。	
(子どもから学んだこと) 当時は毎日運動会の練習もしており、幼児になって本格的な練習になり、子どもたちも気持ちが入っていた。 練習時にかけっこなどで、「がんばれー！」と応援をしていたので、保育室での遊びの時間にも“応援したい”という気持ちが芽生えていたんだなと嬉しく感じた。	



エピソード「わたしが子どもから学んだこと」

—

いつ	初夏
どこで	保育
子どもの学年	3 歳児
(エピソード) 2F のホールで運動遊びが終わり、各自水筒を持って移動していた。 何でも 1 番になりたい A は 1F の保育室に急いで戻る（ホールに水筒を忘れたまま） B が A の水筒だと気づいて自分の水筒と一緒に持って保育室に戻ってくる。 A は B を見るなり奪い取る。B はポカンとなっている（両者無言） 「B が A のだと気づいて持って降りてきてくれたよ」と伝える。 「そうだよね」と B に言う（B うなづく）、 「なんかこわい顔してるけど、もってきてもらってよかったね」と A に言うと、うなづく。 「こんな時には何かピッタリのことばがあるんだけどわかる？」と二人に尋ねる。 A 「ありがとう」 B 「うん」	
(子どもから学んだこと) 子どもの感情につられてしまうのではなく、状況をわかりやすく伝え、場面に合った言葉を子ども自身から引き出すことが大切 前提として、しっかり場面を見ておく必要がある。	



エピソード「わたしが子どもから学んだこと」

いつ	4 月
どこで	保育室前テラス
子どもの学年	3 歳児
(エピソード) ・ A は 4 月から入園してきたが、以前から兄と一緒に園に来ることがあった。 ・ 登園後もすぐに一人で保育室まで来ている。 ・ マイペースで登園準備に取り掛かるまでに時間がかかる。 ・ 靴を履き替えようと座っている A に名札をつけようと、「なふだつけるね」と声を掛けると、「自分で!」と言った。 ・ 再び名札を戻しておくと、A は自分で名札をつけはじめた。 ・ 見守り、名札を付け終えた後、認めの言葉を掛けると、スムーズに登園準備を始めた。 ・ その後、A をきっかけに自分で名札をつけようとする幼児が増えてきた。	
(子どもから学んだこと) ・ 3 歳児でも自分でできることを自分ですること。 ・ 自分ですることで自信を持って取り組めること。 ・ できないと決めつけなくて、個々の力に合わせてできることを少しずつ積み重ねていくこと	



エピソード「わたしが子どもから学んだこと」

いつ	9月下旬ごろ
どこで	園庭にて
子どもの学年	4歳児
(エピソード) 運動会の練習でチーム対抗リレーの練習をしている際に、赤チーム、白チームに分かれて対決をしていたが、何度しても赤チームが勝ってしまう。 メンバーを変えたりルールを考え直すも赤チームの勝利。 白チームの子どもたちが、「白やから負けるやん」「もうしたくない!」と抗議が始まり焦っていると、いつも白チームでリーダーをしていたAが、「大丈夫やって!だって、してみなわからんやん!次は勝てるようにみんな本気だぞ!」と、皆に声を掛けた。 その言葉と励まして他の白チームの子どもたちもうなずき、リレーをすることができた。 結果的にその時も負けてしまったがその一言でみんなが1つになれたような気がした。	
(子どもから学んだこと) 保育者がいつも子どもたちが頑張れるような声かけや励ましをかける中で子どもたち同士の励ましや言葉がとても響いた瞬間だったように思う。 その場でずっと声かけやみんなの士気をあげる言葉が出たのはすごいと思った。	



エピソード「わたしが子どもから学んだこと」

いつ	2 学期
どこで	保育室
子どもの学年	4 歳児
(エピソード) 入園当初は身支度など全くやる気がなく、嫌がって投げたりしていた、発達の幼い幼児が、毎日やろうとした姿や、できたことを認め続けることで少しずつ自らやろうとするようになった。 今では全て自分で分かって身支度ができるようになった。 また、苦手な絵の具活動や感触あそびにも認めてもらいたくて挑戦するようになった。	
(子どもから学んだこと) ・子どもと信頼関係を築くことのたいせつさ ・その上で、がんばっている姿を見逃さず継続して認めることの大切さ	



エピソード「わたしが子どもから学んだこと」

いつ	今年度 4 月～5 月の間
どこで	保育室にて
子どもの学年	年中
(エピソード) 人と関わりたい気持ちはあるが、やりとりになりづらい A くん。 園に入ってからずっと保育者やお友達に「嫌い！」とわざと言ったり、押したり叩いたりして相手の反応を見て（嫌がる反応も含めて）楽しんでいた。 相手が嫌がっていること、困っていることを伝えてもなかなかその行為がおさまらない。どうしたものかと考えていました。 年中になり、新しいグループの子に少しずつ慣れてきた A くん。 「嫌い！」と叩くということだけでなく、顔を寄せあったりするようになる。 ある日 B ちゃんとケンカをし、B くんが A くんに対して激しく怒った。 その時、A くんはその状況に向き合えなかったが、次の週、B くんの様子を A くんなりに気にしている様子があり、おもちゃを渡しに行くなど A くんから歩み寄る姿があった。	
(子どもから学んだこと) 発達障がいという経験が積み重なりづらいとか、イメージする力（気持ちと向き合う状況が苦手）が弱いなどと言われているが、A くんなりに積み重なっていることや B くんのことを考え続けていたことに胸を打たれました。 1 人 1 人の内面についてまた丁寧に見ていこうと思います。	



エピソード「わたしが子どもから学んだこと」

いつ	5 月上旬
どこで	園庭
子どもの学年	年中組
(エピソード) 夕方の外遊びの時に A ちゃんと一緒に園庭のあちこちを散策していると、だんごむしを探している男の子（何匹もつかまえていた）がいて、一匹 A ちゃんに「あげる！」とくれた。 うれしかった A ちゃんは砂場のカップにだんごむしを入れて眺めていると、ハッと思い立って近くの葉っぱをちぎってだんごむしのカップに入れてあげていた。 「なんで？」と聞くと、「だんごむし はっぱすきやねん！」とやさしく小さくだんごむしに合わせてちぎってあげていた。 帰りどうするかな？と保護者がお迎えに来た時に思っていたら、いきなり走って行って、「ちゃんとお家にかえったよ！」うれしそうにバイバイしていた。	
(子どもから学んだこと) 小さな生き物にも母性の気持ちを持ってお世話をしたり、だんごむしも家（草の中）に帰してあげようという優しい気持ち	



エピソード「わたしが子どもから学んだこと」

いつ	3 歳児から 4 歳児に進級して 3 月～5 月
どこで	保育室や園庭
子どもの学年	4 歳児
(エピソード) クラスの中では、同じおもちゃが欲しい⇒取り合う⇒順番を待つ ということができつつあった。 おもちゃをひとりじめしてしまう子（支援の必要な子）に対しても同等。 1 年間、自分だけのおもちゃじゃないから次かしてあげようと声をかけていた。 ⇒4 歳児クラスで同じ状況になった時に子ども同士で「みんなのものやから終わったらかしてな」というようなことを言っていた。 3 歳児クラスは幼児の中でも小さいということで、ブランコも 2 名が長時間のっていたが、進級し、違う遊びも見つけられたこともあり、年少の子にゆずり、ブランコを押す姿が見られる。	
(子どもから学んだこと) 3 歳児の間にうまく表現できずトラブルになってしまっていたことも毎日の声掛けを受け止めてくれていた。 年少や年長、友達とのコミュニケーションの中で物の貸し借りができてきたと感じる。	



エピソード「わたしが子どもから学んだこと」

いつ	数年前
どこで	保育室にて
子どもの学年	4～5 歳児
(エピソード) クラスの中でガキ大将的な存在のAくんがいた。Aくんは友達との関わり方があまり得意な方ではなく、つい手を出してしまうことがある。周りの友達からも、「またAくんが～してきた」と意地悪ばかりするので、怖がられたり、嫌がられてしまうことも多々あった。 Aくんに「どうしてそんなことするの?」と聞くと、「××が～してきたから」と理由は伝えるものの、現場を見ていると理由と違うことも多い。 そんな中、ある時からピタリと意地悪が止まった。弟の存在である。弟が産まれ、大事にしなければならぬという気持ちが芽生えた。 そこから助け合う気持ちを持ったり、思いやりの気持ちを持てるようになった。これまで避けていた子たちも頼るようになり、ガキ大将からリーダー的存在になった。	
(子どもから学んだこと) 大切にしなければいけない存在が出来たことで、これまで乱暴だったAくんが友達に手を差し伸べたり、とても思いやりを持てるようになり、こんなに変わるのかと感じた姿であった。	



エピソード「わたしが子どもから学んだこと」

いつ	5 月中旬
どこで	保育室
子どもの学年	5 歳児
(エピソード) ・遠足後の学びとして、恐竜と色を学ぶ 2 つのチームに分けられました。(挙手制) 恐竜が好きな A くん「どっち学ぶの?」と聞くと、「ぼくは色にする!」と言いました。 「恐竜好きやし恐竜を学ぶと思ってた」と言うと、 「え、ぼくもう恐竜知ってるからまだ知らない色にするねん」と保育者に伝えてくれました。 それから、「〇〇と〇〇混ぜたら〇〇になるんや、初めて知った」と目をキラキラさせながら学びを深める姿がとても印象的でした。	
(子どもから学んだこと) 子どもの好きなことから大人の固定概念で決めつけていたところが、これを通して、考え方は無限にあって子どもの好奇心・関心は奥深いことが分かりました。 考えを決めつけるのではなく、様々な視点から考えを持つことの大切さを学びました。	



エピソード「わたしが子どもから学んだこと」

いつ	3 年ほど前
どこで	園生活の中で
子どもの学年	5 歳～6 歳
(エピソード) 親子関係や生活環境が厳しくいつもモヤモヤとした気持ちの A くん。 友達との関わりでも自分の思いが伝わらないと思わず手が出てしまう毎日でした。 当時、保育全体のフォローをしていた自分は、はじめはなんとかその姿を止めることやクラス集団に入れるように支援を続けていたが、1 対 1 で彼の話をじっくり聞くこと、大人の都合で生活の流れに合わせようとしなくて、そばにいる安心できる大人として一緒に過ごすようにしました。 その中で少しずつ彼が楽しいと思うことや、本当は友達とも一緒に遊びたいと願う気持ちなどが理解できるようになり、担任の先生と連携を取りながら少しずつ彼の好きな事で人と繋がる機会を増やしました。そんな保育を重ねる中で年長児の最後はみんなと一緒に劇作りをやりきる喜び、達成感につながった。	
(子どもから学んだこと) 色んな生活環境や個人の特性がある中で、大人の願いを要求するばかりでなく、まずは安心できる大人になること、そして子どもの姿から保育のねらい、機会を作り上げて本人が大きくなる時間をしっかりと保障することの大切さを学びました。	



エピソード「わたしが子どもから学んだこと」

いつ	朝のそうじの時間とおやつの時間
どこで	保育室
子どもの学年	5 歳児
(エピソード) 朝のそうじの時間（年長クラスがホールやウサギ小屋などのそうじをします）、5 人のグループが横一列に並んでホールの端から端までぞうきんがけをするのですが、5 人並び終えるまでに時間がかかり、待っていた Aくんは怒って、「〇〇おそいねん！」とぞうきを投げました。 周りの子はその勢いにシーン。 でも Bちゃんは「そんなおこらんでいいやん～ きてって言ったら？ イライラするんやったら牛乳いっぱい飲みや～！」と声を掛けてくれました。 その日のおやつの時間、Aくんは誰にも言われるでもなく、コップに牛乳をいっぱい入れてニヤリ！ それに気づいた Bちゃん。「あ！Aくんいっぱい牛乳飲まはる～（ニコリ）」 「これで怒らへんで～！」と Aくん。二人で笑い合っていました。 その日以降、「今日おこらんと言えはったで～」と気づいてあげる Bちゃんがいます。	
(子どもから学んだこと) ・大人からしたら「そんな言い方…」や「牛乳飲んだ方が…」と諭してしまいがちな場面ですが、子ども達同士の伝え方を見て、子ども同士のつながりの大切さ、ステキな姿に気づいてあげられる姿、いろんな素敵な所があり、仲間とのつながりの大切さを改めて学びました。	



エピソード「わたしが子どもから学んだこと」

いつ	去年
どこで	保育室
子どもの学年	5 歳児
(エピソード) 二人目の弟が産まれてしばらくした時、急に泣き出したり、給食が食べられなくなった A くん。 何日かその状況が続いた時、泣きながらこう言ってくれました。 「ママに抱っこしてほしい。」 その言葉を伝えたかったんだという思い、よく教えてくれたねという思い、何よりママに抱きしめてほしかったんだ、気づいてあげられなくてごめんねと、私も涙が出てきました。 そのことをお母さんに伝え、お母さんと二人で泣いたことを思い出します。	
(子どもから学んだこと) ・お母さんに認めてほしい、愛されたい ・弟は大好きだけどまだまだぎゅっとしてほしい	



エピソード「わたしが子どもから学んだこと」

いつ	お弁当の時間
どこで	保育室
子どもの学年	5 歳児
(エピソード) 意にそぐわないことがあり、泣き続けていた A ちゃん。 教師が気分転換ができるような声をかけたりしながら何とか気持ちの立て直しができるように援助していたがなかなか立て直せないでいたところ、B ちゃんが保育室の所定の場所から A ちゃんの大好きな粘土を見つけ、少し気持ちを立て直す様子が見られた。	
(子どもから学んだこと) 友達の様子をよく見ており、優しい気持ちが育っていることを感じさせてもらった。	



エピソード「わたしが子どもから学んだこと」

いつ	5月中旬
どこで	遠足（昼食時レジャーシート）
子どもの学年	5歳児
(エピソード) ・虫（あり、蚊など）が苦手なA。 園庭でござを敷いて昼食を食べる時はアリがござを歩く、蚊がとんでくる度に怖がり、泣いたり叫んだりすることがあった。 遠足では体を伸び伸びと動かし楽しむ姿が見られた。昼食時、レジャーシートに座るとアリの姿を探し怖がる様子が見られた。「あっちへ行って」「こっちこないで」と言葉で表せると、友達がはったり、「大丈夫だよ」と言葉を掛ける姿が見られた。 いつになっても不安になるAに、教師が「先生のシートと一緒に食べる？」と誘うと、自ら荷物を持って隣の教師のレジャーシートに移動し笑顔でおしゃべりを楽しみながら食べることができた。	
(子どもから学んだこと) ・分かりやすい、実感できる安心の援助が必要だった。 ・Aの「怖い」気持ちに対して、本当に共感できていたのかなと感じた。 ・Aの求めていた安心と教師が考えていた安心に違いがあった。 ・友達のレジャーシートに座ると大丈夫になる？	



エピソード「わたしが子どもから学んだこと」

いつ	2024 年 1 月
どこで	保育室にて
子どもの学年	5 歳児
(エピソード) 年中児クラスの 3 月に卒園していく先輩の年長さんから引き継いだ藍の種を春に植え、夏に華を収穫し、干して乾燥させ、水を入れて発酵させて染料の素となる「すくも」を作ります。 冬に藍建てを行い、いよいよ染めが始まった頃、「げっこりあい」と「うゆむめ」と藍がめに名前をつけて、毎日かくはんを繰り返していたある日、染まりがあまりよくない「げっこりあい」をみていた A ちゃんが、「元気がないから寝てるんや」と言いました。B ちゃんは「起こしてあげよう」と言って、空き缶のプルトップを集めてきてヒモを通して、シャンシャン鳴る鈴のような楽器を作りました。 A ちゃんは「おまもりをつくる」と言って、覚えたての針仕事でお守りを作って、かめのヒモにくくり付けました。 二人は音を鳴らしながら手を合わせて藍の元気を祈っていました。	
(子どもから学んだこと) 生きているもの同士の想像力を働かせることで子どもの内から湧き出す願いと、願いを実現するための知識、技能が一体的に発揮されていること。	



エピソード「わたしが子どもから学んだこと」

いつ	節分
どこで	プレイルームにて
子どもの学年	年長児
(エピソード) 節分の時期、かなりリアルな鬼が園にやってきました。 子ども達は怖がり逃げ回って必死にボール（豆替わり）を鬼目がけて投げつけます。 年長相手ともなると鬼も容赦なく襲い掛かっていきます。泣き叫ぶ子どもや隠れる子どももいて部屋の中は大混乱。 すると、先生が鬼にさらわれてしまいました。 「助けてー！」と言いつつ、別室へ連れて行かれそうになっていると、子ども達の「どうしよう」という顔がたくさん見えました。ですが、なかなか助けてくれる勇気の出る子どもがいませんでした。いよいよ見えない所まで連れて行かれそうになると、Aくんが泣きながら助けに来てくれました。 Aくんは日頃おとなしく、人前で話すことが苦手で表情も変化の少なめの子どもでしたが、みんなが戸惑う中、1人足を踏み出してくれたという感動と驚きのエピソードでした。	
(子どもから学んだこと) 日常生活では見ることが出来ない子どもの姿を行事を通して見ることができました。 恐怖を与えすぎるといけないけれど、本気で心を動かす体験も時には子どもに自信や達成感を与えることにつながるのではないかと思います。	



エピソード「わたしが子どもから学んだこと」

いつ	5 月
どこで	保育室
子どもの学年	3 歳児 5 歳児
(エピソード) 3 歳児の A くんが毎朝「ママがいい」と泣きながら登園していました。 保育者が声を掛けてもなかなか泣き止みませんが、園で作っている 3 兄弟の 5 歳児 B ちゃんが声をかけるとすぐに泣き止み、着替えを手伝ってもらって笑顔になっていました。	
(子どもから学んだこと) 子どもは子どもの中で育ち合うのだと改めて感じました。 時にはそっと見守ることも大切だと思いました。	



エピソード「わたしが子どもから学んだこと」

いつ	5 月
どこで	保育室
子どもの学年	3.4.5 歳児
(エピソード) 3.4.5 歳児 3 学年 1 つのグループを作り 1 年過ごす 3 兄弟保育をしている。 ④③⑤と 3 人で手をつないで並ぶことが毎日あるが、この日は 3 歳児の A の機嫌が悪く、4 歳児の B と手をつなぐことを激しく拒否。 嫌がられるほど必死になって 4 歳児の B は「手つなぎなさい！」と無理やりつなごうとして、A は更に大泣き。 そこで黙って見ていた 5 歳児の C が 2 人の間に入り両手に A と B を連れて 2 人もすっとおとなしくなる。	
(子どもから学んだこと) 並ぶ順が一応決まってはいるがケンカをしている年下の子どもを見て、すかさず自分が場所を変わって動いた年長の子どものすごいなと思った。 大人より冷静に状況を見て判断できる力を素晴らしいと思った。	



エピソード「わたしが子どもから学んだこと」

いつ	5 月の中旬頃
どこで	学校で
子どもの学年	1 年生
(エピソード) 入学から初めて私用のため午前休を取った。 給食前に教室についた私に、「先生～」「だいすき～」「会いたかった～」と抱きついてきた。 高学年が多かったこともあり、教師が子どもにとってとても大切なんだと感じた。	
(子どもから学んだこと) ・担任は無条件で愛されるということ また、その関係性のもと日々の実践ができているということ。	



エピソード「わたしが子どもから学んだこと」

いつ	5 月
どこで	教室
子どもの学年	1 年生
(エピソード) 多動気味でよく体が動く児童がいるが、集団の中にいると注意をする場面が多くなってしまふ。注意が多くなってしまふと自分を叩いたり、目が泳いだりする。 これでは本児の自尊心が傷ついてしまふと感じ、できないことを注意するのではなく、できたことをほめるに変えた。 すると、「お母さん大好き」「先生大好き」「〇〇すごいね」と、プラスの発言が増え、「今は集中モードやねん」と自分で学習課題に向かえるようになった。	
(子どもから学んだこと) 子どもは素直でいくらでも変われる。続けていきたいと思う。	



エピソード「わたしが子どもから学んだこと」

いつ	
どこで	
子どもの学年	1～3 年
(エピソード) 子どもが私と同じ言い回して他の子に注意している様子を見て、こちらの接し方が子ども同士のやり取りの中でもされていると気づきました。	
(子どもから学んだこと) ・どんな子の良いところも見つける ・子どもの見る力はすごい ・特支的な子への配慮などもこちらの接し方ひとつで他の子たちの態度も変わるのだと思います。気を付けないといけないなと改めて気づかされました。	